

社教連会報

発行 一般社団法人 全国社会教育委員連合

〒101-0065 東京都千代田区西9-13-1-6
日本武道会ビル7階 TEL. 03-6380-8540

官民協働の先駆けとしての 社会教育委員

文部科学省生涯学習政策局社会教育課長

伊藤 学司

社会教育の振興は、「官」のみで行えるものではなく、また、行うべきものでもありません。民間の知恵と力による部分が大きいことから、官民協働で社会教育を振興するため、民間の知恵と力を社会教育行政に活かす制度として、社会教育法の制定時より、社会教育委員の制度が行政の中に明確に位置づけられています。地域の課題は、行政の力だけで解決したり、民間市場に解決を委ねるという方法だけでは解決できず、地

域住民が行政と一緒にあって解決していくコミュニティ・ソリュージョンが求められる分野です。現在、どの自治体においても、住民と協働した活動の振興をめざしており、NPO法人制度や税制上の優遇措置など官民協働を促進するための制度整備も進められています。社会教育委員制度は、そうした官民協働の先駆け的な存在なのです。

伊藤 学司
(いとう かくし)



■プロフィール
1967年生まれ
早稲田大学法学部卒業後、文部省(当時)入省

岩手県教育委員会文化課長・学校教育課長、
文部科学省研究振興局技術移転推進室長、
高等学校教育局長、
文部科学省大臣官房企画官等を歴任。
2012年1月より現職

り巻く環境は厳しさを増しています。厳しい行財制改革により、委員数や会議回数の削減、更には委員制度自体の廃止を余儀なくされ

ている地域も出てきています。

しかし、そのような状況をただ嘆いているだけでは何も進みません。「社会教育委員は実際に役立っているのか」という厳しい問いかけに対し、具体的かつ説得力を持って反論していけるか——行政から依頼されたことを行政に都合よく掲言するだけの役割では無く、行政だけではできない、民間の知恵と力により社会教育を振興するという創設時の趣旨に立ち返った取組みが各地で積み上げられることがその答えになるのではないのでしょうか。

折しも、この1月に中央教育審議会生涯学習分科会から、今後の社会教育行政の方向性についての提言が出されました。これからの社会教育行政は、まちづくり部局や福祉部局など他の行政部局との連携・協働を強めるとともに、地域のNPO団体や大学・企業等と連携・協働したネットワーク型行政を推進していくことが必要とされています。民の中にいる社会教育委員が、行政の社会教育主事等と連携しながら、地域の人づくり・絆づくり、そして地域をよりよいものとするため、主体的に活躍されていくことを期待しています。

第54回全国社会教育研究大会(山梨大会)を終えて

第54回全国社会教育研究大会を山梨県において開催するにあたり、全国各地からご参加いただきました社会教育委員・社会教育関係者の皆様、ご理解、ご協力をいただいた全国社会教育委員連会の方々に心からお礼申し上げます。

山梨県下の社会教育委員は、それぞれの役割分担で準備し、また企業、団体からも多くのご支援をいただき、本県としてはできる限りの態勢で迎えさせていただきました。

参加された皆様には、山また山の中にある自然豊かな地域であることを実感していただいたことと思います。

このような環境にあっても、時代の変化により、山梨なりの変貌を遂げておりますが、それぞれの地域で問題を抱えながらも、社会教育・生涯学習につながる活動をしてきております。

全国大会の開催という貴重な機会を得て、社会教育委員はどう関わっていくべきか、今の時代ならではの新しい考え方、発想を出し合い、学

び合うことを期待しました。

記念講演では、山梨県出身で日本経済新聞社の編集委員として、外国の各地でも取材活動をしておられる藤巻秀樹さんに「21世紀の日本と地域社会」と題し、外国から見た日本という、より広い視野からの問題提起をしていただきました。また、シンポジウムではコミュニケーション形成と人材育成に関しての基本的な問題について提起していただきました。

記念講演・シンポジウムそして分科会へと、今回の大会のテーマに沿って、どのようにつなげていくか、開催県として構想を練らせていただきましたが、ご期待にこたえることができたかどうか不安な面もありました。

分科会の進め方については、活動事例として発表された内容から発展して、全国各地からのそれぞれの視点で、遠慮のない発言をしていただき、交流を深めたいと考えました。

分科会での事例発表には、多くの方々から申込をいただきましたが、私どもの判断で二人の発表者を選定

させていただきました。おかげさまで各分科会とも、期待通りの進行で、有意義な意見交換ができたと思います。

より新しい社会教育をめざした子育て支援の活動の一例として、山梨からも分科会で発表させていただきましたが、本県においても、老人介護の問題と共に児童虐待の事例が増加しております。子育てに悩む親への支援、親同士のつながり。今やこれが地域づくりの重要課題であると言えます。

最近また社会的な関心と呼んではいる「いじめ問題」は、学校教育だけの問題でなく、家庭や地域との連携が必要であり、あえて言えば共同責任とも言わざるを得ません。

各分科会それぞれのテーマの違いはありますが、子どもを地域の中心にかかえながら、地域住民が、遊びやさまざまな活動を共にすることで絆を広げていくことが、いかに大切なことかを、あらためて共感することできたと思います。

いずれの分科会でも、学び合う絶

好の機会となりました。

平成25年度に第55回全国大会開催県となる三重県社会教育委員連絡協議会の皆様には、大いなる期待を込めるとともに、今回の山梨での開催に際し、ご協力いただいた皆様に重ねて感謝申し上げます。

山梨県社会教育委員連絡協議会

会長 宇野 五千雄



第55回全国社会教育研究大会三重大会 第44回東海北陸社会教育研究大会 ご案内

今日の社会は、都市化、核家族化、少子化等の進展により、家庭を取り巻く環境は大きく変化してきています。さらに、科学技術やグローバル化の進展、高度情報化等により、人々のライフスタイルや価値観もますます多様化してきています。

また、私たちが生活を営んでいく上で最も身近な学校、家庭、地域においても、そのありようが、変化してきています。そして、この変化は、すでに個人で対応できる範囲を超えており、わが国が世界から評価される「人の絆」や基礎的な知識技能の平均レベルの高さなど様々な「強み」を活かして、社会全体で取り組んでいくことが求められています。

つまり、人と人とのつながりの大切さを改めて認識し、身近な住民同士が協働して取り組み、地域での活動を活性化することが重要となってきているのです。この実現のためには、一人ひとりの個性や能力（自分が身につけた知識や技能など）を活かして、その人自身が輝き、さらには、まわりの人も輝かす社会教育の推進が必要であると考えます。

そこで、本大会では、「学校、家庭、地域を大切にした人が輝き、協創する社会教育の推進」の研究主題のもと、各地域における社会教育活動の実践や研究成果について情報を交換し交流を深め、つながりや支え合いを大切にした人と人との絆を通して活力あるコミュニティづくりの形成をめざして研究協議することを趣旨とし、開催いたします。

来る10月、全国各都道府県の社会教育委員はもとより、生涯学習・社会教育関係者、公民館関係者、その他社会教育関係団体をはじめとして生涯学習・社会教育に関わる皆様のお越しを心よりお待ちしております。

三重県社会教育委員連絡協議会会長

第55回全国社会教育研究大会三重大会実行委員会委員長 瀧浅 祥司

◇大会の概要

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | スローガン | 「すごいやんか！ きらり輝く人・まちづくり in 三重」 |
| 2 | 研修主題 | 「学校、家庭、地域を大切にした 人が輝き、協創する社会教育の推進」 |
| 3 | 期 日 | 平成25年10月23日(水)～25日(金) |
| 4 | 大会参加費 | 5,000円/人 |
| 5 | 会 場 | 三重県営サンアリーナ(三重県伊勢市朝熊町宇鴨谷4383-4)
伊勢志摩ロイヤルホテル(三重県志摩市磯部町の矢字笠取939-6)
志摩市阿児アリーナ(三重県志摩市阿児町神明1074 番地14)
志摩市立図書館(阿児ライブラリー)(三重県志摩市阿児町神明1074-15) |
| | (全体会) | |
| | (分科会) | |

6 大会日程

《第1日目》

- | | |
|------------------------|-------------|
| 10月23日(水)会場：三重県営サンアリーナ | |
| 社教連理事会 | 14:00～15:20 |
| 社教連総会 | 15:30～17:00 |

《第2日目》

- | | |
|------------------------|-------------|
| 10月24日(木)会場：三重県営サンアリーナ | |
| 社会教育実践視察研修 | 9:00～11:00 |
| 【受付】 | 11:40～12:30 |
| 開会行事 | 12:30～13:20 |
| 社会教育実践交流広場 | 13:30～14:50 |
| 学習成果の発表 | 15:00～15:25 |
| シンポジウム | 15:30～16:50 |
| 全体会閉会行事 | 17:00～17:10 |

《第3日目》

- | | |
|-------------------------|------------|
| 10月25日(金)会場：伊勢志摩ロイヤルホテル | |
| 志摩市阿児アリーナ | |
| 志摩市立図書館(阿児ライブラリー) | |
| 【受付】 | 9:00～9:30 |
| 分科会〔6分科会を設定〕 | 9:30～12:00 |



次回開催地挨拶
～第54回山梨大会にて～

※現段階での予定であり、今後変更になることがあります。

平成24年度
地区別社会教育
研究大会

新しい公共の担い手育成と地域の活性化について

第52回北海道社会教育研究大会は、11月1日、2日の両日、道南の温泉地、胆振管内登別市の市民会館などを会場に115市町村から340名の参加を得て開催されました。

1日目は開会式・表彰式の後、社教連の坂本登常務理事が「データに見る社会教育委員の意識と活動」と題して講話を行いました。その中で、政権担当政党・文科省部門会議のヒアリングで社教連が要望・提案した事項およびその扱いについて10月25日の総会で決議されたことの報告・解説がなされ参加者の関心を集めました。

続いて、道内企業の(株)セイコーマート会長、赤尾昭彦氏が基調講演し、企業研修に力を注ぎ、人材の養成に努めたことが成功につながったと体験をもとに話され、社会教育委員など参加者に多くの示唆を与えました。



2日目の分科会は、参加者一人一人の参画を意図して4年前の大会から導入している小グループ

(8人程度)による協議を行い、それぞれの地域の課題を理解するとともにテーマの本質について意見が交わされるなど、充実した2日間となりました。

北海道社会教育委員連絡協議会
会長 鈴木 文男

東北地区

東北第1震災を乗り越える社会教育の力」～自助と共助の絆ある地域づくりへの挑戦～

平成24年度東北地区社会教育研究大会(青森大会)は、11月1日～2日、八戸市公会堂、八戸グランドホテルを会場に、644名の参加者を得て開催されました。

開会行事では、社教連の林洋子事務局長が出席、挨拶をされました。高校生による被災した高校生の作



文の朗読に引き続き、「震災を乗り越える社会教育の力」をテーマにシンポジウムを行いました。4名のシンポジストの絆ある地域づくりへの取組みから、社会教育関係者が協力し行うべき姿についての示唆に富む意見交換会となりました。

2日目は、4分科会に分かれ、充実した内容の実践発表をもとに、各県の枠組みを超えた活発な意見交換がなされ、地域づくりに向けて得るものが多い内容となりました。

県内外から参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。
東北地区社会教育委員連絡協議会
会長 長内 幸子

東海北陸地区

人と人との絆を深め 家庭や地域の教育力の向上を目指して

第43回東海北陸社会教育研究大会(富山大会)は、10月18日、19日に富山市にて、約900人の参加を得て開催しました。

大会1日目の開会行事では、社教



連の坂本登常務理事よりご挨拶をいただきました。表彰式に続き、越中五箇山こきりこ唄保存会と越中五箇山民謡保存会によるアトラクションを行いました。

続いて、(株)エコロの森の森田由樹子氏に「人と人をつなぐ仕事が見たい」と題して講演をしていただきました。改めて、地方の魅力や多くの人と関わり合いをもつことの大切さについて考える機会となりました。

大会2日目は、「家庭教育の支援」「ボランティア活動」「青少年健全育成」「地域の文化活動振興」「社会教育委員の役割と課題」の5分科会で話題提供と研究協議を行いました。参加者が日ごろの実践をもとに活発に討論を行い、実り多き大会となりました。

東海北陸社会教育委員協議会連合会
会長 畠平 勝光

近畿地区

豊かな人間関係を育む地域社会の創造に向けた社会教育のあり方

平成24年度近畿地区社会教育研究大会(兵庫大会)は、好天に恵まれ、9月7日神戸市の神戸ポートピアホテルを会場に、1,000人を超える参加者を得て盛大に開催されました。

午前中は、開会行事に続き、「新しい生き方の創造(東日本大震災を契機として)」をテーマに、早稲田大学人間科学学術院の鳥越昭之教授から基調講演をいただきました。

午後は、5つの分科会(①地域づくり、②人権教育、③学校・家庭・地域の連携協力、④社会教育委員の役割、⑤青少年教育)において、近畿地区各府県からの実践発表に基づき、活発な意見交換が行われました。絆づくりと活力あるコミュニティの形成をめ



ざし、豊かな人間関係を育む地域社会の創造についてとにも考える機会となり、また参加者

全員がそれぞれの地域で実践していくための契機とすることができた大変有意義な大会になりました。

近畿地区社会教育委員連絡協議会

会長 並川 明子

中国・四国地区

集おう！神話の国へ 創ろう！社会教育が行く道を

「地域の教育力を育むための社会教育の役割を考える」

第35回中国・四国地区社会教育研究大会(鳥根大会)は、11月21日、22日の両日、鳥根県松江市の鳥根県民会館にて、570名の参加のもと盛大に開催されました。

1日目、基調講演では、生涯学習・社会システム研究者の三浦清一郎氏が「地域活動」を創造することの大切さを具体的な事例を交えて語られました。また、パネルディスカッションでは、



シオンでは、行政、民間団体、公民館、地域活動(学校支援)の具体的な取り組みの成果をも

とに、「地域の教育力を高めるために社会教育は何ができるか」というテーマに迫る議論がされました。

2日目、4つの分科会に分かれ、それぞれ「地域の教育力」を研究主題の中心に掲げて事例発表と協議を行いました。

地域コミュニティの再生や住民相互の「絆」の再構築が強く求められている中、「地域の教育力」を高めるといふ社会教育の重要な役割を参加者全員で確かめ、深めることができました。大会となりました。

鳥根県社会教育委員連絡協議会

会長 有馬 毅一郎

九州地区

語っちみるや やっちみるや

「かたい絆だ！社会教育」

今、社会教育に求められているもの、11月1日、2日の両日、宮崎市において、第42回九州ブロック社会教育研究大会(宮崎大会)を約1,000名の参加者を得て開催いたしました。

初日は、地元中高生による生涯学習の成果発表「浦安の舞」で、激かな雰囲気の中、幕が開きました。記念講演として、黒木定藏・西米



良村長に「カリコポーズの村づくり」と題し、講演をいただきました。「幸せ観」をもたせる地域づくりの取り組みは、社会教育にも共通するものであり大変多くの示唆をいただきました。

全体会終了後、大会の目玉「名刺交換会」が開催されました。会場は、婦人会16団体による郷土料理と最高の笑顔に包まれ、参加者は、大いに語り、交流を深め、絆の輪の広がりを感じました。

2日目は4つの分科会に分かれて、今日的課題について有意義な事例発表・討議がなされ、地元にも持ち帰り、実践できる貴重な土産となりました。この大会を通して、「社会教育の絆」を宮崎県から発信できたことが実感でき、充実した大会となりました。

九州ブロック社会教育委員連絡協議会

会長 森山 喜代香

文部科学省委託事業 平成24年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」を受託

当連合では、文部科学省が東日本大震災後の被災地(者)の復旧・復興を願って地方公共団体等に委託し、推進している「学びを通じて被災地の地域コミュニティ再生支援事業」の意趣に賛同し、平成24年7月24日に「社会教育委員がコーディネートする被災地の学習・交流事業」として「被災3県における社会教育委員復興支援実行委員会」を立ち上げ申請をした。実行委員会は、当連合の大橋謙策会長を代表者とし、上條秀元副会長、坂本登常務理事、岩手県社会教育連絡協議会大橋清司会長、宮城県社会教育委員連絡協議会菅原敏元会長、福島県市町村社会教育委員連絡協議会中島功会長と被災3県の事務局担当者、内海隆理事、梶野光信編集委員で構成されている。実行委員会の目的は、被災3県(岩手県、宮城県、福島県)の社会教

育委員が中心となって推進する学習と交流による被災地のコミュニティ再生活動を支援することにある。また本事業を実施するにあたり、被災3県の社会教育委員に協力をお願いしている。事務局は当連合事務局が担当している。

平成24年8月15日に受託が決定し、その後企画委員会、実行委員会を開催し、現在具体的な事業を実施している。

事業の内容

1. 社会教育関係職員・指導者研修

① 宮城県会場(平成24年10月8日実施)

② 岩手県会場(平成25年2月7日、8日実施)

2. イベント、学級・講座の開催

① 子どものための「読み聞かせ」と「昔話」の集い(岩手県遠野市で実施中)

② 家庭教育学級(宮城県気仙沼市で実施中)

③ 復興まちづくり「楽市白河」(福島県白河市で実施中)

3. 事例集の作成

被災地である青森県、岩手県、宮城県、福島県の社

会教育委員が、被災地の復旧・復興のためにどのような活動を展開したかをヒアリングし、その結果を実践事例集「東日本大震災と社会教育委員」としてまとめ、各種の研修会等で活用する。(平成25年2月1日発行)

城島仙台市にて開催された。講演を当連合の理事である菊池龍三郎氏にお願いし、現地報告として「被災地のいま」を石巻市東浜地区災害対策本部長の豊島富美志氏にお話しいただいた。その後「社会教育委員が取り組む被災地の地域づくり活動」としてシンポジウムがあり、シンポジストには被災3県の社会教育委員連絡協議会会長である大橋清司氏(岩手県)、中島功氏(福島県)、現地報告をしていただいた豊島氏に参加いただき、菅原敏元氏(宮城県)がコーディネーターした。

事業1-①として平成24年10月5日に社会教育委員がコーディネートする被災地の学習・交流事業「東日本大震災と社会教育委員」活動実践交流セミナー兼平成24年度宮城県社会教育委員研修会が宮

事業2-②としては、子どものための「読み聞かせ」と「昔話」の集いをイベント、学級・講座の事業として実施している。事務局では1月17日に岩手県遠野市を訪問した。この事業を推進するにあたっては、NPO法人遠野まごころネット事務局の柳澤亮チーフマネージャーにご協力いただいている。岩手県の内陸に位置する遠野市は、沿岸からの避難者が多数居住している。これら避難者のケアのため、新たなコミュニティを形成することは極めて重要な課題で、



「読み聞かせ」と「昔話」のイベントを介して、被災による避難者と避難先住民の垣根、世代間の垣根を越えて交流を演出し、最終的にコミュニティを再生することを目的として計画されたものである。10月から1月までに4回の読み聞かせが行われていた。はじめは沿岸からの避難者が多く居住する雇用促進住宅の集会場を会場として開催していたが、子どもの参加が少なかったため、子どもの参加と地域住民の参加に焦点を絞り児童館に場所を移した結果、参加者が増え、避難者と避難先住民の垣根、



世代の垣根を越えた交流が図られるようになってきている。イベントは読み聞かせに加え、お手玉や竹遊びといった昔ながらの手遊びも取り入れており、訪問した日は読み聞かせが、「ねずみくんのチョッキ」であったため、ハンカチを使ってネズミを作っていた。

また、事業2②の宮城県気仙沼市で実施している家庭教育学級「子育てほっとサロン」では、10月から講師を招いた講演会を実施している。この事業を推進するにあたっては、気仙沼市教育委員会



事務局の小山裕子主査と宮城県社会教育委員の星美保氏にご協力いただいている。1月23日には劇団民芸の俳優佐々木梅治氏によるひとり語り「にんじん」が上演され、事務局も同行した。この日の参加者は子育て中の母親が多く、観劇に慣れていないのかとてもおとなしい印象をうけた。当日は託児スペースを別に設け、母親たちに講演を聴く場を提供していたが、子どもと離れるということに慣れていない様子が多く見受けられた。前日には気仙沼市の白幡勝美教育長、鈴木徳之教育次長にお目にかかり、ご協力いただいたことへのお礼を申し上げた。

そのほかに本部事業として実践事例集「東日本大震災と社会教育委員」をまとめ発行するなど、現在も各事業が進行中である。これらの事業については今年度終了時に報告書としてまとめる予定である。



生涯学習支援実践講座

生涯学習コーディネーターを養成

「生涯学習コーディネーター資格」が取得できます

いま、生涯学習領域で最も必要とされている生涯学習コーディネーター。生涯学習コーディネーター養成のための本格的研修講座。コーディネートの知識・技術が4か月間の通信教育で習得できます。

案内書
無料進呈!

詳しい案内書をご希望の方は、ハガキ・電話・FAX・メールでご請求ください。

財団法人 社会通信教育協会

「生涯学習コーディネーター研修」事務局 〒114-0015 東京都北区中里1-15-8

TEL.03-5815-8432 FAX.03-5815-8433 e-mail sakai@tsushinkyoku.or.jp

講座内容
第Ⅰ単元(テキストⅠ) コーディネートの理解と技術
第Ⅱ単元(テキストⅡ) 地域学習情報の活用と技術
第Ⅲ単元(テキストⅢ) コミュニケーションの仕方の理解
第Ⅳ単元(テキストⅣ) 事業の設計とマネジメントにおける コーディネート

「社教連」だより

平成24年度

第3回理事会・総会について

平成24年度第3回理事会・総会を3月1日(金)に日本弘道会ビル8階講堂にて開催する予定です。

議題は①平成25年度事業計画(案)・収支予算(案)②平成25年度全国大会(三重大会)③平成26年度全国大会(徳島大会)④平成27年度全国大会について⑤定款の一部変更について等を予定しております。

平成25年度

第1回理事会・総会について

平成25年度第1回理事会・総会を5月9日(木)に日本弘道会ビル8階講堂にて開催する予定です。

議題は、①平成24年度事業報告・収支決算報告②平成25年度全国大会(三重大会)③平成26年度全国大会(徳島大会)④平成27年度全国大会について⑤役員の変更について等を予定しております。

ご多用とは存じますが、ご予定くださいますようお願いいたします。

社教情報 No.68

社会教育の明日を拓く

特集:「社会教育委員のチ・カ・ラ」

<巻頭言>

(一社)全国社会教育委員連合副会長 上原 秀元

<特集>①社会教育委員の再設置②県の社会教育委員時代③社会教育委員の力限について思うこと④「夏休みおいでよ」と「伊那おやじの会」にみる社会教育委員の資質・能力⑤教育委員から見た社会教育委員

<海外見聞>

韓国済州島(チュジュド)を訪ねて 内田 和浩

<このひとに聞く>

杉山美沙子氏(プロテニスプレーヤー杉山愛の母) 取材龍野 光信

<解説>教育の機会均等 山崎 清男

編集・発行 (一社)全国社会教育委員連合
TEL 03(6380)8540 FAX 03(6380)8541

事務所移転のお知らせ

当事務所は昨年12月25日(火)より下記に移転いたしました。

新住所

〒101-0065

東京都千代田区西神田3-1-6

日本弘道会ビル 7階

電話 03-6380-8540

FAX 03-6380-8541

大人が「わくわくする」学び

青山学院大学社会情報学部

ワークショップデザイナー育成プログラム

近年、「ワークショップ」という手法が、教育やアート、まちづくりなど様々な分野で注目を集めています。

ワークショップデザイナーは、地域教育、社会教育、企業教育などで、コミュニケーションの場としてのワークショップ(参加体験型活動プログラム)の企画・運営ができる人材です。本プログラムでは、eラーニング、大学での対面講座、協力団体でのワークショップの観察、ワークショップを企画・運営する実習など、ワークショップの理論と実践を学びます。

受講時間

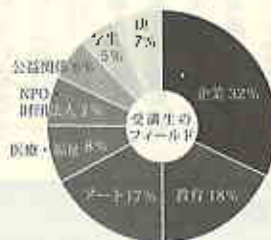
120時間
(対面講座10日間、eラーニング14科目)
4月3-11月

受講料

120,000円
120時間のカリキュラムを修了すると、卒業認定書に基づく履修証明書が発行されます。
※別途募集要項を参照してください。

<受講生のフィールド>

様々なフィールドから多様な年代の人材が集まり、一緒に学び合うことがプログラムの特色です。



- 企業: 会社経営者、研修講師等
- 教育: 小・中・高・大学教職員等
- アート: デザイナー、俳優等
- 医療・福祉: 医師、看護士等
- NPO・財団法人: 国際交流関係等
- 公益関係: 学芸員、行政職員等
- 学生: 大学生、大学院生等
- その他: 主婦、フリーランス等

■詳しくはウェブをご覧ください

<http://wsd.frc.aoyama.ac.jp>
facebook 116215
<http://www.facebook.com/wsd2011>

<お問い合わせ>

青山学院大学社会情報学部
ワークショップデザイナー育成プログラム事務局
wsd@aoyamagakuin.jp